

鉄鋼標準化センター

活動報告

1. トピックス

1. 国際標準化関係

① ISO/EB (Executive Board) : 1月21/22日、ISO中央事務局、ジュネーブ

(1) ISO総会開催を1回/3年から1回/年とし、3回に1回はジュネーブ以外で開催。

(2) 現理事会(1回/年)、現EB(3回/年)を統合し新理事会とし3回/年に、日本はアメリカ、ドイツ、イギリス、フランス等と共に従来どうり常任理事国。

(3) 会長、副会長任期を3年から2年(但し会長は1年のelect期間を設け拘束期間は計3年)。

(4) 現在のTB (Technical Board) をTMB (Technical Management Board) に変更し議長は新設の技術担当副会長とする。(但し(3)の副会長とは任命レベルが異なる)、日本は常任メンバー。

(5) その他ISO規格制定の迅速化の諸施策(教育、コンピューターによる進捗管理密度の向上、条件付き1言語による規格発行の可能性等)。

(6) 上記機構改正のためのISO憲章改正を含め臨時総会を今年11月に開催。

② ISO/TB (Technical Board) 臨時会議 : 1月25日、ブリュッセル

2. 新TC(環境管理)設置の背景 : 1992年環境サミットより派生しスイスのイニシャチブで昨年ISOのなかにSAGE (Strategic Advisory Group on Environment) を発足させ対応策を検討中であった。昨年の理事会で早急に新TCを設置する方向で検討する事が決定していた。

(1) 新TCの名称は“Environmental Management”とし幹事国はカナダとする。

(2) 傘下のSCに関する事項は今年6月開催予定の第1回新TCの検討事項としながらも以下のTB推薦案を作成した。

SC設置案	幹事国案
環境管理システム	: イギリス
環境監査	: オランダ
環境性能評価	: アメリカまたはノルウェー
ライフサイクル解析	: ドイツまたはフランス
環境マーク	: オーストラリア

「用語及び定義」及び「規格における環境問題の取扱い」に関するSCの設置についてはTCで検討する。

2. 国内標準化関係

(1) 日本工業標準調査会会長を選出するための郵便投票の結果山下 勇委員(東日本旅客鉄道株式会社会長・前ISO会長)が会長に選出(平成5年1月14日議決)された。

(2) 日本工業標準調査会第132回鉄鋼部会が2月5日開催され、次19件(うち引張試験、衝撃試験、エリクセン試験、クリープ試験、クリープ破断試験、高湿引張試験、压力容器用鋼板の超音波探傷検査の7件は協会が原案作成)の工業標準案が議決された。

2. TC17幹事国業務

1. 国際規格発行に関する進捗状況

(1) 規格発行についてSC議長の決定がなされたもの : 4件

DIS10332 (SC19) 継目無及びERW鋼管-水圧試験代替の超音波探傷試験 (01-14)

DIS10543 (SC19) 継目無及び熱間仕上溶接管-全周超音波厚み測定試験 (01-14)

DIS11496 (SC19) 継目無及び溶接管-管端の超音波探傷試験 (01-14)

DIS 9302 (SC19) 継目無及び溶接管-水圧試験代替の電磁気探傷試験 (01-14)

(2) DIS投票結果及び各国コメントがSCへ回されたもの : 5件

DIS6931-1 (SC 4) バネ用ステンレス鋼-線 (01-08)

DIS1005-6 (SC13) 鉄道用一体型車輪 (01-25)

DIS5948 (SC13) 鉄道用材料の超音波探傷試験 (01-25)

DIS1005-1 (SC13) 鉄道用車輪用タイヤ (01-22)

DIS11484 (SC19) 鋼管-非破壊試験者の資格認定 (01-08)

(3) DIS投票が開始されたもの : 3件

DIS10124.2 (SC19) 継目無及びSAW以外の溶接管-層状欠陥検出用超音波探傷試験 (01-14)

DIS10700 (SC1) Mnの定量-原子吸光光度法 (12-31)

DIS10701 (SC1) Sの定量-メチレンブルー-吸光光度法 (12-31)

(4) DISが登録されたもの : 1件

DIS439 Siの定量-重量法 (12-15)

(5) CDが登録されたもの : 1件

CD4941 (SC1) Moの定量-吸光光度法 (01-14)

3. TC17/SC1幹事国業務

1. 承認段階 (Stage 4) :

(1) DIS 10702 (N-蒸留滴定法) ; ISOゲラ刷り中央事務局にて準備中。

(2) DIS 10698 (Sb-無炎原子吸光法) ; DIS投票中。締切1993-05-19

票中。締切1993-05-19

(3) DIS 10697-2 (Ca-原子吸光法) ; DIS投票中。締切1993-04-29

(4) DIS 10700 (Mn-原子吸光法) ; DIS投票中。締切1993-06-30

(5) DIS 10701 (S-吸光光度法) ; DIS投票中。締切1993-06-30

2. 委員会段階 (Stage 3) :

(1) CD 10278 (Mn-プラズマ) ; コンビナーが最終CD作成中。

(2) CD 10719 (GC-燃焼性赤外線吸収法) ; コンビナーが最終CD作成中。

(3) CD 10720 (N-融解熱伝導率法) ; 再予備実験準備中。

(4) CD 439 (Si-重量法) ; DIS登録完了 (01-19)

(5) CD 11652 (Co-原子吸光法) ; 再共同実験中。締切1993-05-30

(6) CD 11653 (Co-電位差滴定法) ; 再共同実験準備中。

(7) CD 4941 (Mo-吸光光度法) ; CD投票中。締切1993-03-31

4. TC67/SC5幹事国業務

1. 第2回TC67/SC5国際会議の報告(案)を出席者に送付、2月28日締切で書面審議を実施。

2. TC67/SC5のWG2(継手性能評価試験方法)とWG3(耐食性油井管)への参加メンバー回答権限を1ヵ月延長し、1/Eとした。最終まとは2月に行うが、先月より増えた国は、ルーマニア、英国、ブラジルの3ヵ国で、結果はWG2が8ヵ国、WG3が9ヵ国となった。米国も近々WG2、WG3ともに参加することが確定する見込。

3. ツールジョイント付ドリルパイプの取扱い (TC67/SC5/WG1関係)

先月報告した下記についての処置をISO/TC67幹事Mr. Tretler (ANSI) に面談し、説明した。5月にTC67/SC4国際会議を予定しており、その場で討議すること。

(1) TC67/SC5作業計画にドリルパイプの代わりにツールジョイント付ドリルパイプを登録すること。

(2) 上記作業のため、TC67/SC4担当のAPI Spec 7の内、ツールジョイントのみTC67/SC5に移管すること、及びTC67/SC5/WG1とTC67/SC4のLiaisonを確立すること。

(3) その他

- ・下記をTC67/SC5作業計画よりはずす
API RP 5A5、5B1、5C1
API Bu1 5C2、5C3、5C4
- ・ISO/CD11960 (API Spec 5 CT) は近くDIS登録の予定。